

# 第30期 第1四半期報告書

(2023年7月1日から9月30日まで)



2023年11月9日

## 株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)  
英文名 (英文商号)  
代表者の役職氏名  
本店の所在地  
電話番号  
連絡先

株式会社 旅籠屋  
Hatagoya & Company  
代表取締役 吉井 慎也  
東京都台東区寿3丁目3番4号  
03-3847-8858  
取締役 土谷 裕一

# I 当期の業績

## (1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度 第1四半期	前年度 第2四半期	前年度 第3四半期	前年度 第4四半期	当年度 第1四半期	当年度 累計	前年同期 比	前年度 累計
		2022.7.1～ 2022.9.30	2022.10.1～ 2022.12.31	2023.1.1～ 2023.3.31	2023.4.1～ 2023.6.30	2023.7.1～ 2023.9.30	2023.7.1～ 2023.9.30		2022.7.1～ 2022.9.30
I 営業収益 売上高		649,444	578,534	529,250	573,430	752,013	752,013	+15.8%	649,444
II 営業費用 売上原価		454,286	469,164	482,488	495,300	473,781	473,781	+4.3%	454,286
販売費及び一般管理費		60,235	58,422	53,833	61,002	61,773	61,773	+2.6%	60,235
営業利益または営業損失(▲)		134,923	50,948	▲7,071	17,127	216,458	216,458	+60.4%	134,923
III 営業外収益		672	698	1,961	6,641	1,172	1,172	+74.4%	672
IV 営業外費用		7,964	6,844	6,956	14,865	8,033	8,033	+0.9%	7,964
経常利益または経常損失(▲)		127,630	44,801	▲12,067	8,903	209,598	209,598	+64.2%	127,630
V 特別利益		—	—	19,403	—	—	—	—	—
VI 特別損失		638	0	19,403	0	23,859	23,859	+3,639.7%	638
税引前四半期(当期)純利益または純損失(▲)		126,991	44,801	▲12,067	8,903	185,738	185,738	+46.3%	126,991
法人税、住民税及び事業税		4,377	4,377	4,377	4,402	4,383	4,383	+0.1%	4,377
法人税等調整額		—	—	—	▲48,993	—	—	—	—
四半期(当期)純利益または純損失(▲)		122,614	40,424	▲16,444	53,493	181,355	181,355	+47.9%	122,614
期中平均株式数		5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	—	5,589
1株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)		21,938円	7,233円	▲2,942円	9,571円	32,449円	32,449円	+10,511円	21,938円

・潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

・前年度第1四半期の特別損失638千円は北上江釣子店の閉鎖に伴う固定資産除却損です。同第3四半期の特別損失19,403千円は、27期におけるGoToトラベル事業に対する誤請求分の返納金です。同特別利益19,403千円は、当該返納金に充当するため前代表取締役甲斐真氏から申し入れを受けた役員退職慰労金の受取辞退および追加の負担分です。当年度第1四半期の特別損失のうち22,500千円は29期に退任した役員2人の役員退職慰労金、1,359千円は那須店の改装と名阪長島店で雷害で機器が破損したことによる固定資産除却損です。

## (2) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度	前年度	前年度	前年度	当年度	
		第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末	第1四半期末	
		2022.9.30	2022.12.31	2023.3.31	2023.6.30	2023.9.30	
(資産の部)	I 流動資産	現金預金	745,894	784,540	754,290	814,124	982,726
		その他	109,406	136,754	120,869	93,458	108,151
		流動資産合計	855,301	921,295	875,160	907,583	1,090,878
	II 固定資産	リース資産	262,274	252,304	242,334	232,364	222,395
		他の有形固定資産	911,875	895,082	875,897	855,370	834,781
		無形固定資産	12,936	10,474	8,013	5,705	3,704
		投資その他の資産	217,013	216,277	215,792	264,029	254,104
		固定資産合計	1,404,099	1,374,139	1,342,038	1,357,471	1,314,986
	資産合計	2,259,400	2,295,435	2,217,199	2,265,054	2,405,865	
	(負債の部)	I 流動負債	319,449	329,457	280,381	438,769	410,019
II 固定負債		長期借入金	2,000,175	2,000,175	2,000,175	1,847,831	1,847,831
		他の固定負債	313,965	299,566	286,850	275,168	263,378
負債合計	2,633,589	2,629,199	2,567,407	2,561,768	2,521,229		
(純資産の部)	I 株主資本	資本金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		資本剰余金 資本準備金	68,916	68,916	68,916	68,916	68,916
		その他資本剰余金	41,710	41,710	41,710	41,710	41,710
		利益剰余金 繰越利益剰余金	▲528,017	▲487,592	▲504,036	▲450,542	▲269,192
		自己株式	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798
	株主資本合計	▲374,188	▲333,764	▲350,208	▲296,714	▲115,363	
	純資産合計	▲374,188	▲333,764	▲350,208	▲296,714	▲115,363	
負債・純資産合計	2,259,400	2,295,435	2,217,199	2,265,054	2,405,865		
発行済株式総数		5,589株	5,589株	5,589株	5,589株	5,589株	
1株当たり純資産		▲66,951円	▲59,718円	▲62,660円	▲53,089円	▲20,641円	

・長期借入金のうち300,000千円は商工組合中央金庫から、300,000千円は日本政策投資銀行からのそれぞれ資本性借入金であり、金融検査上資本と見なされます。

### (3) 株主資本等変動計算書 (2023年7月1日～9月30日、単位：千円、千円未満は切り捨てて表示)

項目	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	68,916	41,710	▲450,542	▲56,798	▲296,714	▲296,714
第1四半期中の変動額 四半期純利益				181,350		181,350	181,350
第1四半期中の変動額の合計				181,350		181,350	181,350
2023年9月30日残高	100,000	68,916	41,710	▲269,192	▲56,798	▲115,363	▲115,363

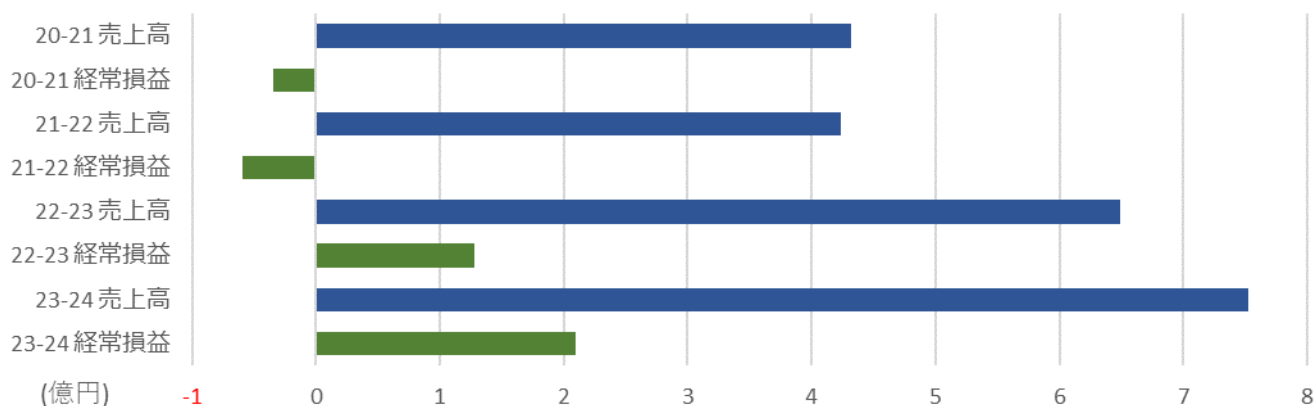
### (4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「第29期事業報告書 注記表 I.重要な会計方針に係る事項に関する注記」をご参照ください。事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
- 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間収益または期間費用として処理しています。
- 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

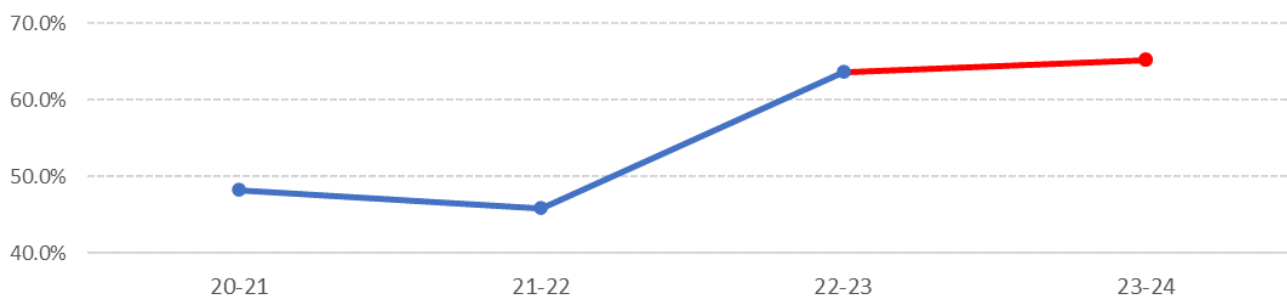
## II 第30期 (2023年7月1日～9月30日) の業績の概況

### 売上高・経常損益(全社合計)の推移 (2023年7月1日～9月30日)



昨年同期と比較して、売上高は 649,444 → 752,013 千円、経常損益は 127,630→209,598 千円と順調に改善しています。

### 客室稼働率(全店通算)の推移 (2023年7月1日～9月30日)



客室稼働率は前期同四半期 63.7%から 65.2%へと回復しましたが、まだ 70%を超えていたコロナ前の水準には届いておりません。

【部門別内訳】については、掲載を見合わせております。オーナー様へは要望に応じてレポートさせていただきます。

### Ⅲ 第30期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第27期 通期実績 2020.7.1～2021.6.30	第28期 通期実績 2021.7.1～2022.6.30	第29期 通期実績 2022.7.1～2023.6.30	第30期 通期予想 2023.7.1～2024.6.30
売上高	1,468,293	1,735,040	2,330,659	2,457,000
経常損益	▲400,658	▲246,384	169,268	167,000
当期純損益	▲417,101	▲329,585	200,088	124,000

### Ⅳ 資金および借入金の状況

#### (1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第29期第1四半期 2021.7.1～9.30	第29期第2四半期 2022.10.1～12.31	第29期第3四半期 2022.1.1～3.31	第29期第4四半期 2022.4.1～6.30	第30期第1四半期 2022.7.1～9.30
現金および預金の増減額	+149,365	+38,645	▲30,249	+58,833	+168,602
現金および預金の四半期首残高	596,529	745,894	784,540	754,290	814,124
現金および預金の四半期末残高	745,894	784,540	754,290	814,124	982,726

#### (2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第29期第1四半期 2022.7.1～9.30	第29期第2四半期 2022.10.1～12.21	第29期第3四半期 2023.1.1～3.31	第29期第4四半期 2023.4.1～6.30	第30期第1四半期 2023.7.1～9.30
短期借入金の増減額	-	-	-	+152,344	-
短期借入金の四半期首残高	-	-	-	-	152,344
短期借入金の四半期末残高	-	-	-	152,344	152,344

#### (3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第29期第1四半期 2022.7.1～9.30	第29期第2四半期 2022.10.1～12.21	第29期第3四半期 2023.1.1～3.31	第29期第4四半期 2023.4.1～6.30	第30期第1四半期 2023.7.1～9.30
長期借入金の増減額	-	-	-	▲152,344	-
長期借入金の四半期首残高	2,000,175	2,000,175	2,000,175	2,000,175	1,847,831
長期借入金の四半期末残高	2,000,175	2,000,175	2,000,175	1,847,831	1,847,831

#### (4) 投資その他の資産の内訳 第30期第1四半期末(2023年9月30日)時点(千円未満は切り捨てて表示)

172,750千円	… 借上直営店における差入れ保証金(契約満了時返済)
23,781千円	… 「水戸大洗店」における建設協力金(10年均等償却)
48,993千円	… 繰延税金資産
6,205千円	… 貸付金
1,210千円	… 取引信用金庫などへの出資金
1,130千円	… 信用保証協会への信用保証料
34千円	… リサイクル預託金
合計 254,104千円	

### Ⅴ 今後の事業展開について

#### サイトリニューアルによる集客増・工数減

10月12日に新たな予約システムを導入し、サイトもリニューアルしました。使い勝手が大きく変わったため、長らくご愛顧いただいているお客様に慣れていただくには少し時間がかかるかもしれませんが、確実に見やすく、使いやすくなっているはずです。新たな顧客の取り込み策も今後実施していきます。予約の自動化やオンライン事前決済の導入により、店舗の工数も大きく削減され、働き方が変わってくるものと考えています。

#### 店舗建設の再開

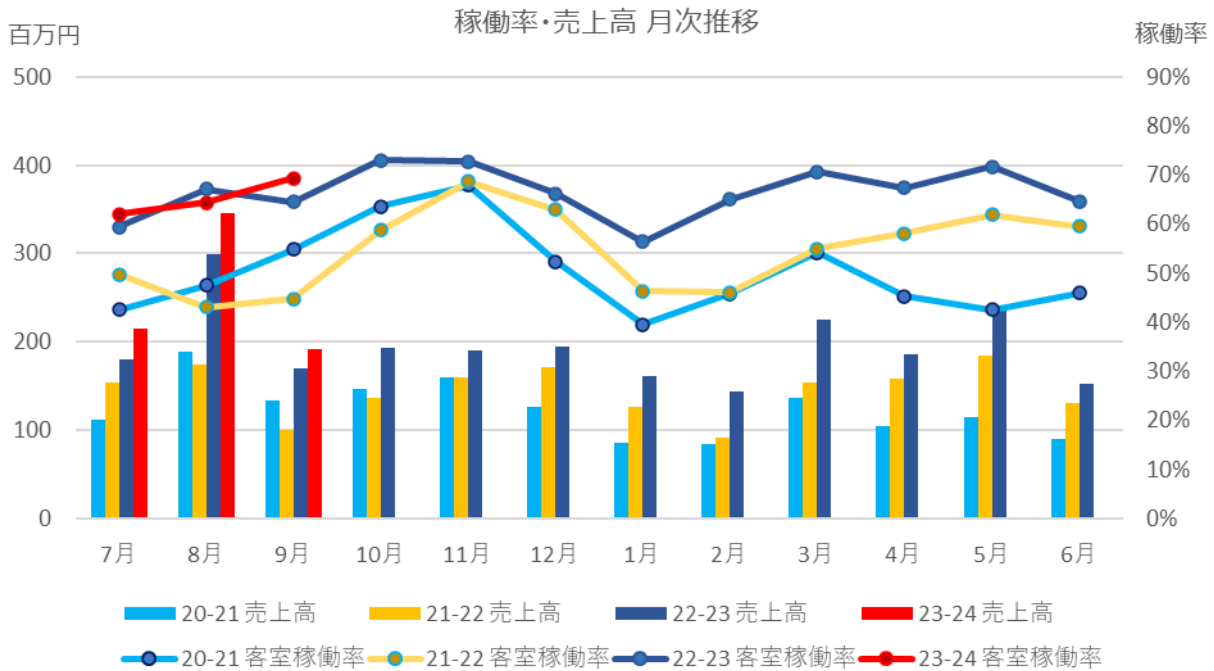
自社店舗である那須店は老朽化のため23年9月に一旦閉鎖しました。来年の夏前に新たなデザインコンセプトでリニューアルオープンする予定です。加えて、年度内に新規出店を1店舗はオープンさせたいと考えています。

## 今後の見通し

アフターコロナの新しい年度がスタートしました。稼働率はまだコロナ前に届かないものの、売上は着実に積みあがっています。インバウンドはまだ数%に留まっており、今後の伸びしろとして期待できます。

課題としては、引き続き人財です。特に店舗で働く支配人の高齢化が進み新陳代謝が求められますが、サービス業全体で希望者が減少しており、採用は厳しい状況が続いています。賃金アップや働き方改革を進めるとともに、旅籠屋の働くことの魅力を伝えていけるように採用ページを工夫して参ります。

### ◆売上高と客室稼働率の月次推移



以上